



鳥取県倉吉市・はこた人形師

江戸時代から明治期にかけ建造された赤瓦の白壁土蔵群や京風町家の並ぶ風情を醸すのは、鳥取県倉吉市である。白壁の映える街並みは玉川に沿って独特の情緒と光景を演出していて見応えがある。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたのは一九九八年（平成十年）。今回は白壁土蔵群の中に「はこた人形師」の三好明さん（八十五歳）を訪ねた。人形づくりを始めて五十年、その表情には深い皺が刻まれ長い歳月の職人魂を感じさせる。

「はこた人形」は江戸時代から倉吉に伝わる張り子人形で、一体一体を手づくりするだけに「弟子にしてくれと、訪ねて来る若者がおるが、なかなか続かん」と手厳しい。どの工程が大変ですかと、水を向けると「人形とは言え、品のある顔を描くのが一番、重要だし、むずかしいな」と端的に語る。工房の内部には沢山の人形達が、三好さんのやさしい筆づかいを待っているかのように微笑ましい。

歴史的伝統工芸が末永く続くことを願ってやまない。

（写真・文 樋口健二）